

看護師たかこの

すこやか生活

2018年3月

早いもので3月を迎え、いろいろなところで紅白の梅の花が咲いています。幼稚園にも以前梅の木があり、この時期大きな花を咲かせていましたが、ホールの建築と共に、姿を消しました。今年はこの花を見られずに少しさみしかったのですが、友人の誘いで津久見の四浦半島の河津桜を見に行ってきました。3月～4月に咲くソメイヨシノやボタン桜より一月早い桜見でした。ソメイヨシノより濃いピンク色で、海と山を背景にしてとてもきれいで、ちょっとした小旅行をした気分を味わいました。友人の話と津久見市によるテレビやホームページ等での広報ではじめて河津桜を知りました。行った先々で観光協会の人なのかはわかりませんが、彼らが着ていたのが、河津桜を模した淡い桃色の半被でこれもとてもきれいで、観光客を迎えていました。大分にはまだまだ知らない所がいっぱいあると気が付きました。

3月は旅立ちとお別れの時期を迎えます。年長さんは新1年生へ、在園児さんはそれぞれ、年長さん年中さんへとお兄さんお姉さんになります。今年1年を振り返ってみて、日々ご苦労があったと思いますが、子どもたちの成長に改めて、驚き、感動する日々を送ったことと思います。



私は今まで地域の中で何もしてこなかった罪滅ぼしとして、今できる範囲で何かしようと思ひ、地域の中で少し役割を担っています。「子どもから高齢者まで健やかに暮らせる地域づくり」が重要とつくづく感じています。地区の30歳から40歳代の人と話していると、時代の変化を感じます。若い世代のお父さんお母さんは仕事も学校や地域活動にも熱心な人がこんなにいるのかと、感心しています。私の世代は、地域の仕事は二の次で、仕事が大きなウエイトを占めていました。今後2025年問題さらに2030年から2040年と少子高齢社会がますます深刻化してきます。2025年問題では団塊世代が全て高齢者になり、これから多死の時代に入ります。そしてさらに団塊ジュニアの人口は少なく、未婚者や一人暮らしが増え、高齢者を支える人口自体が減少し、社会保障制度が危うくなります。「行政」が行っていたことが「地域」が担わなければならない、地域社会の中でお互い共存しあいながら生活できるように、自助共助の時代になっていく時代が予想されます。今の子どもたちは、今後予想されるこんな時代を生きていかなければなりません。今のような豊かな時代ではなくなるかもしれません。自らの頭で考え、行動でき、お互いに共存し、困難なことにも立ち向かっていき、心豊かでお互いに信頼できる人になってほしいと願っています。

ご卒業、転園される保護者のみなさま、つたない文章をお読みいただき、ありがとうございました。今後とも宮河内幼稚園をご支援賜りますようお願い申し上げます。

たかこ